

外務省

外務類集

工業之部第

燈明臺建築及諸標的設置書類

目錄

第一號

一 神奈川府判事ヨリ國々燈明臺建築場所實地検査ノ為メ外國船雇入不日出帆ノ未翰

第二號

一 全判事ヨリ前同斷來組入員再應無會ノ未翰

第三號

外務省

一 相州劔崎豆州神子元島燈明臺地検査トシテ水野千波出張中雇英人グラントニ應接并別紙書類

附屬別紙

一 紀伊國海岸村々役人ノ達書

一 五代才助外一名宛ノ書翰

一 燈臺用石切出方石工受書貳通

一 神子元島劔崎燈臺建築場繪圖貳葉

一 水野千波帰京届書

第四號

一 燈明臺掛ハ燈明臺預リ人雇附ノ約條書案四送ノ注翰

附屬別紙

一 燈臺預入雇入約條書案

第五號

一 神奈川縣判官事ヨリ燈明臺建築守燈傭附方英公使へノ書翰約書等廻送ノ来翰

附屬別紙

一 英國公使へノ書翰

一 守燈方傭附ノ書面

第六號

一 燈明臺掛へ浦賀觀音崎等へ建築成功ノ燈明臺布

外務省

告書翰案照會云々ノ往翰

第七號

一 神奈川縣へ前件布告并書翰案ハ燈明臺掛へ意見達シ置レ吉ノ回答往翰但来翰脱ス

第八號

一 全判官事ヨリ觀音崎燈明臺落成セシヲ新聞紙ニテ布告セシ吉獨逸公使云々ノ来翰

附屬別紙

一 獨逸公使ヨリノ来翰

第九號

一 全判官事ヨリ観音崎燈明臺成功ノ布告早々處置アリ度旨ノ来翰	第拾號	一 英公使館附ヨリ燈明臺掛長谷川五位ニ面晤ヲ請フ旨ノ来翰	第拾壹號	一 全館ニ前件回答往翰	第拾貳號	一 長谷川五位ニ燈明臺書類廻送方催但ノ往翰	第拾三號	外務省		一 神奈川縣判官事ニ燈明臺落成布告方催但ノ回答往翰 <small>但来未 脱ス</small>	第拾四號	一 東京運上所掛判事ヨリ内地燈臺建築ニ就キ各港入津外國船ヨリ税銀取立方意見回答往翰 <small>但照會 書脱ス</small>	第拾五號	一 長崎府ニ燈明臺建築ノ為備附ノ英人ヲラントシ全港ニ出張取計向行政官達書廻送ノ往翰	附屬別紙	一 行政官ヨリ長崎府ニ達書
--------------------------------	-----	------------------------------	------	-------------	------	-----------------------	------	-----	--	--	------	---	------	---	------	---------------

第拾六號

一 毛利宰相中將公用人へ前全件行政官ヨリノ達書  
達ノ往翰

附屬別紙

一 行政官ヨリ毛利宰相中將へ達書

一 毛利宰相中將公用人答書

第拾七號

一 神奈川縣へ前函件別紙寫廻送ノ往翰

第拾八號

一 全判官事ヨリ燈明臺建築ノ為メフラントン下ノ

外務省

関其外各所へ出張セル旨ノ来翰

附屬別紙

一 フラントンヨリノ書翰

第拾九號

一 神奈川縣判官事ヨリ燈明臺掛リ人員月給等取調  
書送致ノ来翰

附屬別紙

一 燈臺掛リ人員月給調書

第貳拾號

一 全判官事ヨリ薩州佐多岬へフラントン始出張ニ

前全判官事又

就島津へ達書寫送致ヲ請フ旨ノ来翰	第貳拾壹號
一 上野敬公へ前件島津へ達書廻送ノ往翰	附属別紙
一 島津少将へ達書	第貳拾貳號
一 神奈川縣判官事ヨリ本多主膳正藩藤倉見達外國 官燈明臺掛通辨申付方照會ノ書翰	第貳拾三號
一 全判官事へ前件藤倉見達へノ達書送致ノ往翰	附属別紙
一 藤倉見達へ達書	第貳拾四號
一 全判官事ヨリ佐多ノ岬燈明臺へ備フヘキ器撤注 文方別紙達書共廻送ノ来翰	附属別紙
一 フラントンヨリノ書面	第貳拾五號
一 全判官事ヨリ前件英公使へ依頼ノ書翰所望ニ因	

外務省



リ達シ方報知ノ来翰	第貳拾六號	一英公使ハ佐多ノ岬燈明器械全國ニ注文依頼ノ注翰	附屬別紙	一燈明臺器械注文書	第貳拾七號	一神奈川縣判官事ヨリ燈明臺掛職務遷轉報知ノ来翰	附屬別紙	一燈明臺掛リ名面書	第貳拾八號	一神奈川縣ヨリ燈明臺檢査ノ為ノ上野敬介廻岸別紙見込書朱書附箋廻送ノ来翰	附屬別紙	一上野敬介燈臺檢分見込書并附箋	第貳拾九號	一全判事ヨリ豆紀兩州燈明臺ニ増詰人名書廻送外兩件處置方照會ノ来翰	附屬別紙
外務省															

一 豆紀兩州増詰人名書	第三拾躰	一 全縣へ上野敬今具申ノ趣旨外ニケ条別紙ヲ以云 云回答ノ注翰	附屬別紙	一 神祇官へ照會書并附箋	一 行政官へ金札不通用ノ上申書	第三拾壹躰	一 全大少丞ヨリ燈明臺掛リ人員引換方云々ノ來翰	附屬別紙	一 燈明臺掛リ人名書	第三拾貳躰	一 全縣へ前件今暫ク従前ノ通り其縣ニテ取扱フヘ キ旨ノ回答注翰	第三拾三躰	一 全大少丞ヨリ長州海峡へ浮標瀬標洲標設置セレ 旨ノ來翰	附屬別紙	一 下ノ関海峡へ設置ノ浮標取扱ノ士官心得法 則
外務省															

第三拾四號	一 全大少丞ヨリ燈明臺附通辨増員ノ照會書
第三拾五號	一 全大少丞ヨリ前件回答催促ノ來翰
第三拾六號	一 全大少丞ハ燈明臺附通辨全縣ニテ人撰スル旨 答回答注翰
第三拾七號	一 全大少丞ヨリ前件全縣ニテ人撰ノ名前申出ル來翰
外務省	
附屬別紙	
一通辨名面書	
第三拾八號	一 神奈川縣大少丞ヨリ紀州燈明臺地所汐岬明神遷社云々ノ來翰
第三拾九號	一 神祇官ハ汐岬明神遷社云々速ニ評決ヲ請フ旨ノ注翰并附箋回答
第四拾號	一 全官ハ汐岬明神遷社和歌山藩ハ全官ヨリ通達ヲ



請フ旨ノ注翰	第拾壹號	一和歌山藩公用人ハ汐岬明神遷社ノ達書	第拾貳號	一在神奈川縣大少丞ヨリ汐岬明神遷社確定ノ報知ヲ請フ旨ノ來翰	第拾三號	一全縣ハ確定ノ書面廻送ノ注翰	第拾四號	一全縣ヨリ汐岬明神遷社引移料出方照會ノ來翰	外務省	第拾五號	一神奈川縣ハ前件回答注翰	第拾六號	一全縣ヨリ雇フラントン工業方明細書壹冊廻送ノ來翰	附屬別紙	一フラントン工業明細書	第拾七號	一米公使ヨリ長崎燈明臺點火ノ比合寺云々訊問ノ來翰

<p>第四拾八號</p> <p>一 燈明臺掛リへ前件取調報知スへキ旨ノ注翰</p>	<p>第四拾九號</p> <p>一 全掛リヨリ全件修造方遅々セシ旨辨解ノ來翰</p>	<p>第五拾號</p> <p>一 在神奈川大少丞ヨリ長崎燈明臺點火ノ比合云々 廻答ノ來翰</p>	<p>第五拾壹號</p> <p>一 長崎縣へ全港燈明臺點火ノ手續其他照會ノ注翰</p>	<p>第五拾貳號</p> <p>一 米公使へ長崎燈明臺點火云々辨解ノ回答注翰</p>	<p>第五拾三號</p> <p>一 大藏省へ燈明臺築造ノ事務全省へ管轄替ノ注翰</p>	<p>第五拾四號</p> <p>一 全省へ前件管轄替確定ノ報知催促ノ注翰</p>	<p>第五拾五號</p> <p>一 全省ヨリ前件管轄替承諾ノ來翰</p>	<p>第五拾六號</p> <p>一 在神奈川縣大少丞ヨリ燈明臺掛身分進退ノ照會 ノ來翰</p>
---	--	--	---	--	---	--	--------------------------------------	---

外務省

<p>附屬別紙</p> <p>一 燈明臺掛人名書</p>	<p>第五拾七號</p>	<p>一 全大少丞へ前件燈明臺掛進退ノ回答書</p>	<p>附屬別紙</p>	<p>一 早川庄次郎外貳名免職ノ達書</p>	<p>第五拾八號</p>	<p>一 全大少丞へフランドンヨリ燈明臺掛云々ノ書翰ニ就キ訊問ノ注翰</p>	<p>附屬別紙</p>	<p>一 フランドンヨリノ書翰</p>	<p>第五拾九號</p>	<p>一 神奈川縣へ燈明臺掛轉遷人問合ノ注翰</p>	<p>第六拾號</p>	<p>一 全縣ヨリ前件身分變遷ナキ旨ノ來翰</p>	<p>第六拾壹號</p>	<p>一 大學校大少丞へ英語教師バリーリ燈明臺掛リへ雇入試用ノ達書</p>	<p>第六拾貳號</p>	<p>一 燈明臺掛リヨリ英語教師バリーリ雇入試用ノ回</p>
------------------------------	--------------	----------------------------	-------------	------------------------	--------------	--	-------------	---------------------	--------------	----------------------------	-------------	---------------------------	--------------	---------------------------------------	--------------	--------------------------------

外務省

<p>答来翰 <small>但注束 脱ス</small></p>	<p>第六拾三號</p>	<p>一澤卿寺島大輔獨逸公使へ燈明臺叔稅方應接拔革</p>	<p>第六拾四號</p>	<p>一英國議政官ヨリ燈明臺叔稅ノ布告ノ寫ニ武通</p>	<p>第六拾五號</p>	<p>一大藏省ヨリ燈臺局首長出府ノ上ハ報知ヲ請フ旨 来翰</p>	<p>附屬別紙</p>	<p>一神奈川縣ヨリ大藏省へノ書面</p>	<p>外務省</p>		<p>第六拾六號</p>	<p>一米公使ヨリキンク岬燈臺建築方云々ノ来翰</p>	<p>第六拾七號</p>	<p>一神奈川縣參事ヨリ前件場所取調云々回答ノ来翰 <small>但注束 脱ス</small></p>	<p>附屬別紙</p>	<p>一繪圖壹葉</p>	<p>第六拾八號</p>	<p>一米公使へキンク岬ハ燈臺建築セサル旨ノ注翰</p>	<p>第六拾九號</p>
--------------------------------------	--------------	-------------------------------	--------------	------------------------------	--------------	--------------------------------------	-------------	-----------------------	------------	--	--------------	-----------------------------	--------------	---	-------------	--------------	--------------	------------------------------	--------------

一 燈明臺掛へ品海臺場中へ燈明臺建築ノ為全港繪  
圖取調方ノ注翰

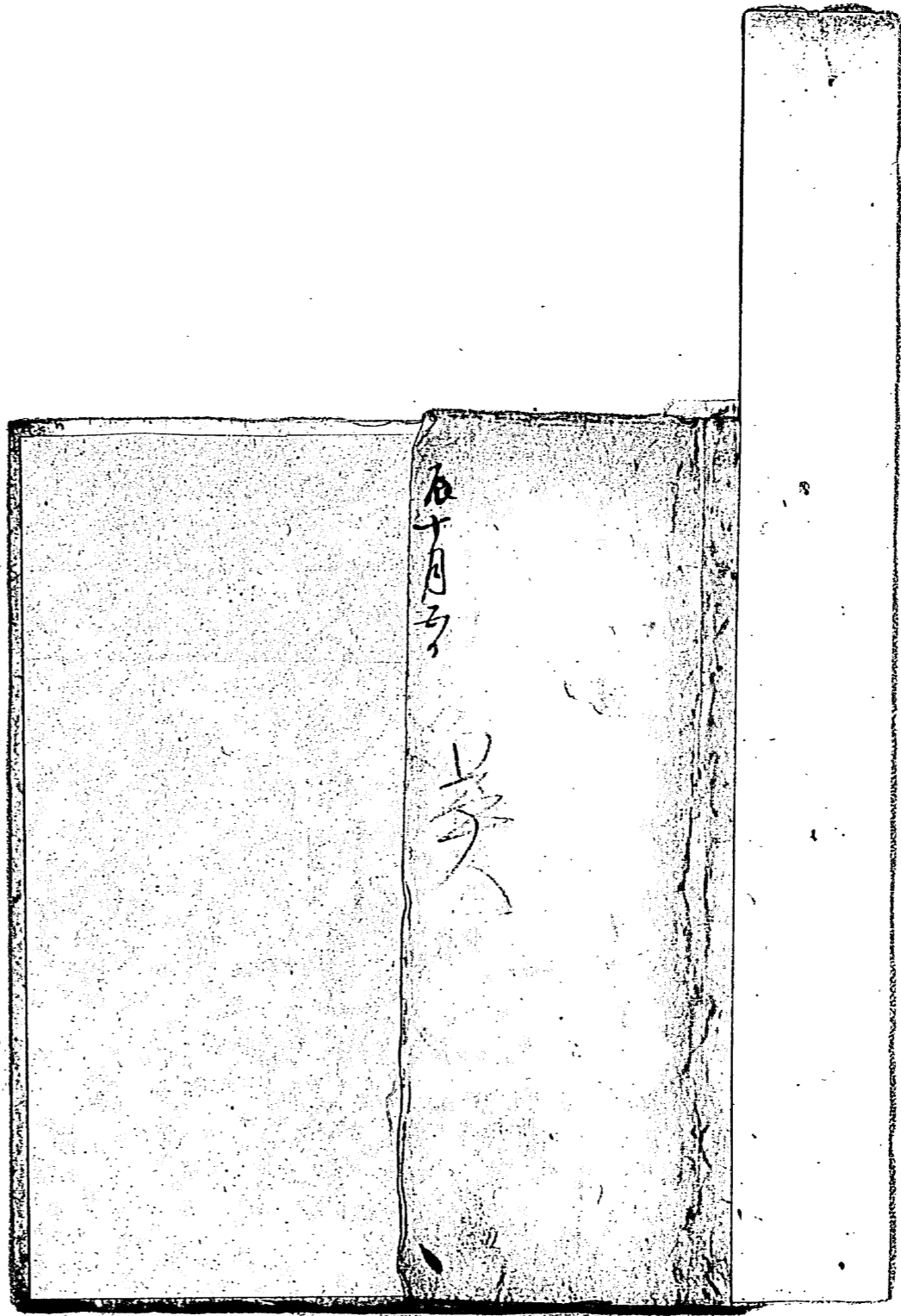
第七拾弍

一 神奈川縣權知事へ内海臺場燈明臺画圖面製鑲所  
首長へ送致依頼ノ注翰

第七拾弍

一 全縣ヨリ内海臺場へ建築ノ燈明臺着手ノ比合報  
知ノ来翰

外務省



石  
十  
月  
号  
  
上  
巻

3-2186

00 19

以多所設成以多結此遠  
四燈的燈創建之設象  
國軍艦マニラ等國近海

3-2186

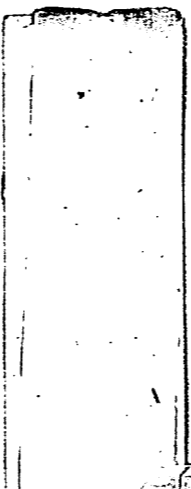
0020

見分れ廻りし村者も政府に  
入用之不足用進出の事  
ありしは後之通に申上り  
兵庫其他所々官吏の  
有約條法に違ふ事ありし  
事の否も亦も難計なり  
兵庫出船の事と云はれ  
此通を有る後なる尤ブライト

3-2186

0021





水海通書書物年号

有山石可山石書物年号

十

花子下サ下

古嶋陶前棟

3-2186

0022

國之始明基在東建在東外府之  
 實地見之為外國船相雇進  
 之港少東之京府。擲收之為  
 船之大板表。相也。夫之所  
 為也。見分。在。少。皆。有。坊。所  
 在。定。為。才。可。所。之。想。之。府。藩。縣。  
 問。合。諸。事。了。引。合。之。後。可。有。之。  
 物。之。有。之。權。之。尚。力。之。向。之。保。  
 近。日。美。船。大。板。之。相。也。之。大。之。意。  
 少。之。皆。也。之。是。相。也。夫。之。由。國。意。

綴

有之由程段、有尤大板通、石山

此方、移入、の、の、の、の、及、掛、合

以上

神志川府

九月十日

判事

外巻

判事

0024

3-2186

校了

戊辰九月十一日

外國官

神志門府

判事

判事

中

由之ハ控以番内不建カ知マニ月々ト其地見  
分ク存ノ外ハ船カ雇込ト入港以舟来京  
府カ掛彼主人カ参知上大掛表カ  
只一夫カ所トト参知一見分以カ

第壹脚

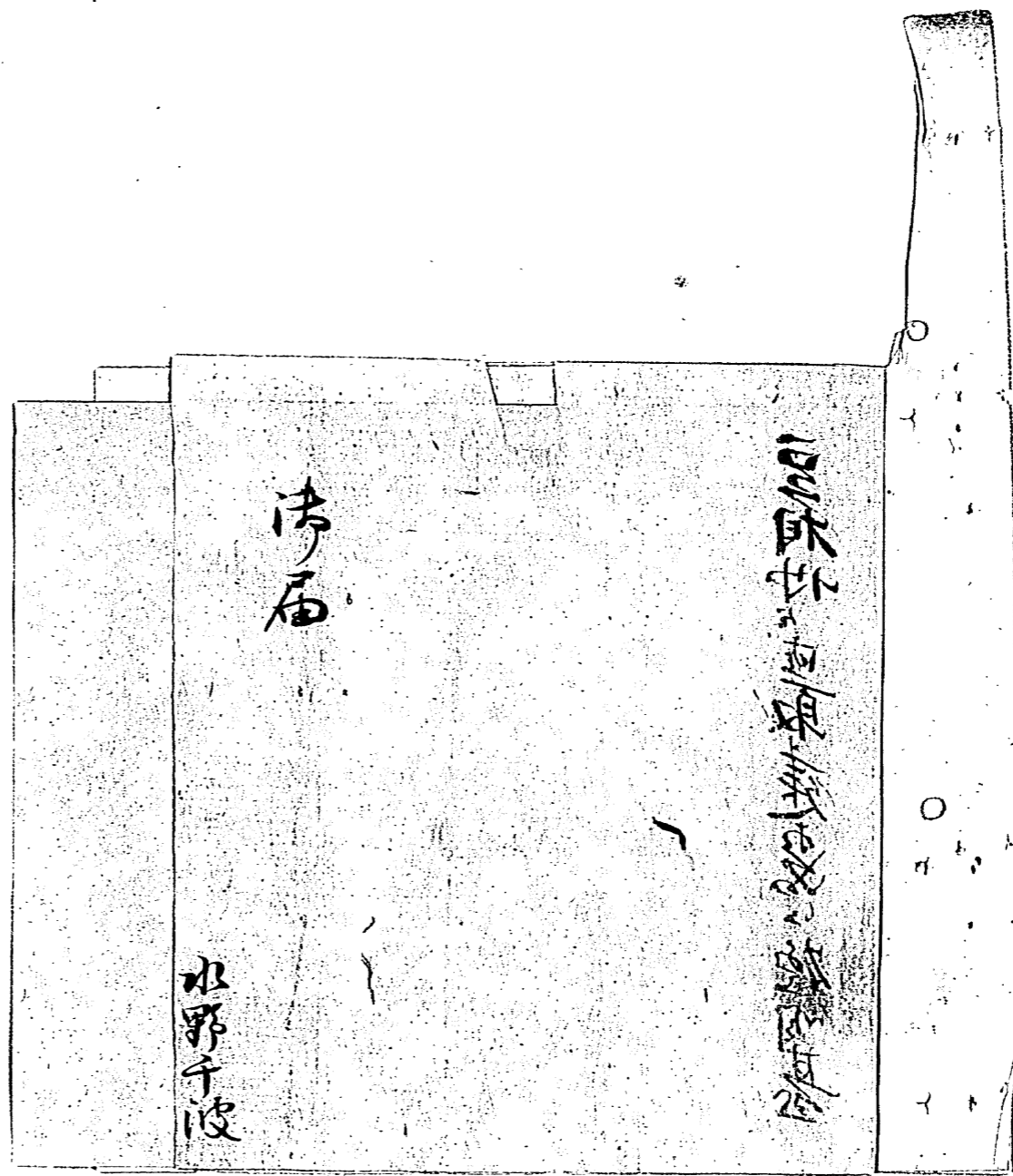
夫若ニ旨掛所カ定以舟其所ニカカ有  
藩縣カ向合諸事引合カ儀ト可省一物カ  
中者三権ニ出カ向カ 仰旨通日英船大取  
カカ以分参知カ 旨告以所カ其カ  
此用意者カ其振込後カ大取通一石炭カ  
此方カ後入カ一其此及以掛名カ之

戊辰九月十一日



事交至之旨其命之別毎日有船之來  
附支松公使より一書交之尚港出帆何  
日と在定所中々以在形限切迫波居急  
速に仕構可者之矣

戊辰九月十八日



3-2186

0028

東海

北陸十段

三和仲の取違ひの御用書

坊前見分の御用書

坂地迄の御用書

坂向の御用書

調級立村上の御用書

港の御用書

丹古の御用書

吉野の御用書

忌振の御用書

御用書の御用書

嘉永七年上

十月

北陸十段



三有仲之由取達之由之徳因基

坊前是分の孫子之孫也此河は道

坂地は紙の膜に對して列の道

之向の廣は紙の厚坂地也

調級立村上由之由之徳因基

港上陸の由之由之徳因基

丹古橋之由之由之徳因基

之由之由之由之由之徳因基

忌板之由之由之由之徳因基

此之由之由之由之由之徳因基

之由之由之由之由之徳因基

十月廿

水野千波

辰  
相列秘法  
フランドン法判其外書有

水野才波

元年

3-2186

0031





一 此後少くも是の如く石川、教代、金、孫、少、由、程、表、  
以、濟、其、時、其、方、亦、相、成、先、其、成、也、

一 此後少くも是の如く石川、教代、金、孫、少、由、程、表、  
以、濟、其、時、其、方、亦、相、成、先、其、成、也、

- 一 丈六尺人 中身人 三寸人 北首之孫也
- 一 丈六尺人 中身人 三寸人 北首也
- 一 丈六尺人 中身人 三寸人 北首也

石川、海、舟、子、也、通、一、身、也、

一 口、の、教、

石川、通、海、舟、子、也、通、一、身、也、

一 三寸下、海、舟、子、也、通、一、身、也、



交率も多しりて日中入る者極多し其成る月日迄  
わが所領ハソノ是より使ふなり其後と終

一 度秋の法ハ新法に改めしりて一年の法也非也  
以て相領の道自承を改定し其後と終

中知のりハ日中入る者人々其の法也其後と終  
年ハ其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終  
國主ハ其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終  
而邪不其其人ハ其後と終のりハ其後と終

一 尚書ハ其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終  
其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終  
其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終

一 尚書ハ其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終  
其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終  
其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終  
其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終  
其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終のりハ其後と終

をる勅方より又少く用ひ奉る指し申り久し奉

物事大坂迄御注進奉り久し申す下命も多し是程

御紙の御注進は又面市へ候御注進急り申す

奉侍し奉る御注進御注進の御注進御注進

大坂表へ御注進の御注進御注進御注進御注進

御注進御注進の御注進御注進御注進御注進

若く未久世公御注進の御注進御注進御注進

御注進御注進の御注進御注進御注進御注進

一 郡有奉り御注進の御注進御注進御注進御注進

双市御注進御注進の御注進御注進御注進御注進

そと御注進

三ツ御注進御注進の御注進御注進御注進御注進

の御注進御注進の御注進御注進御注進御注進

村上御注進

一 美お水知の御注進御注進御注進御注進御注進

一 三ツ御注進御注進の御注進御注進御注進御注進



一三三ト進ハ人押送り凡格為候事  
 一初キ押送り此由為候法久知事  
 一因大九百三音由候事知事  
 右候事一の一

此三條相違も通船も入用月押送り初キ打之  
 事五五條大船分も水も少科も少事定座  
 下由三度等定一付入用相御多も水も少事  
 清と初考し申一も事又相御多事

一 一三三ト進ハ人押送り凡格為候事  
 一 初キ押送り此由為候法久知事

一 因大九百三音由候事知事  
 一 右候事一の一  
 一 此三條相違も通船も入用月押送り初キ打之  
 一 事五五條大船分も水も少科も少事定座  
 一 下由三度等定一付入用相御多も水も少事  
 一 清と初考し申一も事又相御多事

一 一三三ト進ハ人押送り凡格為候事  
 一 初キ押送り此由為候法久知事  
 一 因大九百三音由候事知事  
 一 右候事一の一  
 一 此三條相違も通船も入用月押送り初キ打之  
 一 事五五條大船分も水も少科も少事定座  
 一 下由三度等定一付入用相御多も水も少事  
 一 清と初考し申一も事又相御多事

又事所乃政府處之私事是之謂也  
私部亦事所乃海濱之國所予其私之也  
はしりたり私之也

一 何事をも定むるは治定之をわたりて公便を以てす  
よの事知るなり

一 年中俵候より先達之程中より他より過り  
燈の基を建てる者も政府より多く入替り有  
りて外國船より先達之程より入替りと補はる

各國船に租税を建てる事ありて又亦同様に  
各各國に格合を中知るなり

一 昔の事知るなり先達之程より先達之程より  
多しは租税を建てる日なりは先達之程より先達之程より  
之相成りたる中より先達之程より先達之程より  
海濱より先達之程より

及先達之程より先達之程より先達之程より  
先達之程より先達之程より先達之程より

各國領事官に抗議する旨の報告あり

一 俄國領事官に抗議する旨の報告あり

一 俄國領事官に抗議する旨の報告あり

俄國領事官に抗議する旨の報告あり

俄國領事官に抗議する旨の報告あり

俄國領事官に抗議する旨の報告あり

俄國領事官に抗議する旨の報告あり

一 俄國領事官に抗議する旨の報告あり

一 俄國領事官に抗議する旨の報告あり

一 俄國領事官に抗議する旨の報告あり

一 俄國領事官に抗議する旨の報告あり

一 俄國領事官に抗議する旨の報告あり

一 俄國領事官に抗議する旨の報告あり

一 俄國領事官に抗議する旨の報告あり

一 俄國領事官に抗議する旨の報告あり

一 俄國領事官に抗議する旨の報告あり

邦人等の同種者等

いふ事知り申す大徳に於ては其の事余亦知れり  
邦人等は同種者等又其の事余亦知れり  
千七百一十三年

石内河津の事

一 高田子の城守の事  
石内河津又其の事余亦知れり  
邦人等は同種者等

邦人等の同種者等  
邦人等は同種者等  
邦人等は同種者等  
邦人等は同種者等



水知り申す

候旨に申す候後申す

千二百兩の候旨候後申す

是等候旨に申す候後申す

一 杉葉苗等も金程下申す候旨に申す候後申す

申す候旨に申す候後申す

申す候旨

是等候旨に申す候後申す

是等候旨に申す候後申す

一 土口公之進と申す候旨に申す候後申す

申す候旨

是等候旨に申す候後申す

一 杉葉苗等も金程下申す候旨に申す候後申す

申す候旨に申す候後申す

是等候旨に申す候後申す

一 杉葉苗等も金程下申す候旨に申す候後申す

申す候旨に申す候後申す



石通石相留候後、石通石相留候切知方、石通石相留候  
石通石相留候

石通石相留候以上、石通石相留候切知方、石通石相留候  
石通石相留候以上、石通石相留候切知方、石通石相留候  
石通石相留候以上、石通石相留候切知方、石通石相留候  
石通石相留候以上、石通石相留候切知方、石通石相留候

辰十月

水野中波



△下

東京府知事事務官

酒込

村上由一郎

右の如く各官署の所管事務を整理し  
場外事務を自らの手管に引下し  
以て英人グラントン及びフリスに代り  
港近長級事務を自らの手管に引下し

村上由一郎は在任中に其官署の事務を整理し  
場外事務を自らの手管に引下し  
以て英人グラントン及びフリスに代り  
港近長級事務を自らの手管に引下し

明治九年十月

東京府知事事務官  
酒込  
村上由一郎

村上由一郎

テニ





右邊より北に地を引く  
フニト一回禁口を移す

右邊より北に地を引く  
右邊より北に地を引く  
右邊より北に地を引く  
右邊より北に地を引く  
右邊より北に地を引く  
右邊より北に地を引く  
右邊より北に地を引く  
右邊より北に地を引く  
右邊より北に地を引く  
右邊より北に地を引く

東邊中より北に地を引く  
東邊中より北に地を引く  
東邊中より北に地を引く  
東邊中より北に地を引く  
東邊中より北に地を引く  
東邊中より北に地を引く  
東邊中より北に地を引く  
東邊中より北に地を引く  
東邊中より北に地を引く  
東邊中より北に地を引く

此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり

十月十日

水野千波

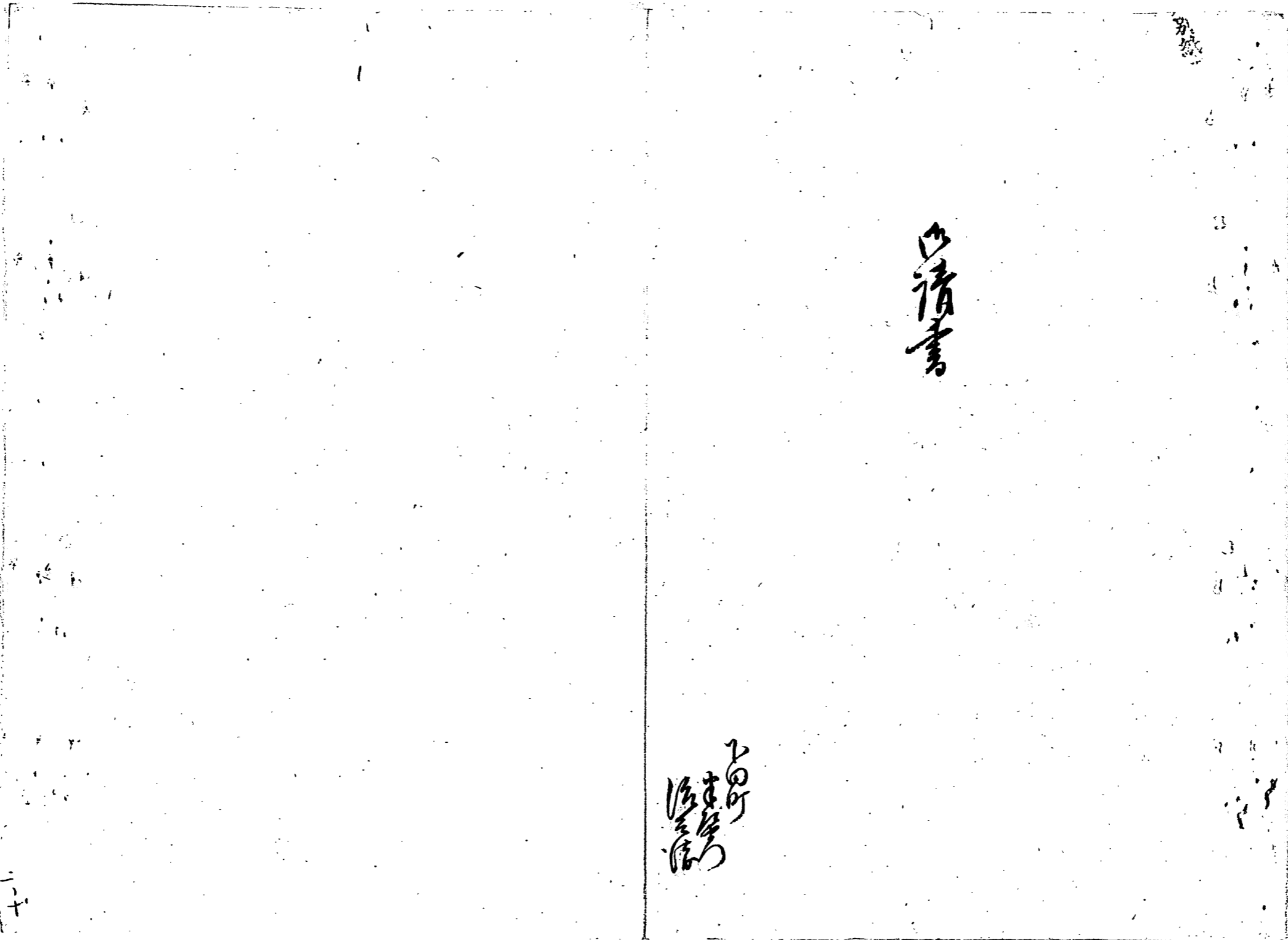
大代也助友

伊豆修介友

不詳存中

此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり  
此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり

一 此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり  
此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり  
此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり  
此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり  
此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり  
此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり  
此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり  
此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり  
此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり  
此の如き後、右の如く進められたる事、甚だ遺憾なり



山清書

山清書  
山清書

3-2186

0051

古事記上巻法書事

一 古事記上巻法書事  
伏見宮御成務所  
長久保 中納言  
藤原 隆家

一 古事記上巻法書事  
伏見宮御成務所  
長久保 中納言  
藤原 隆家

一 古事記上巻法書事  
伏見宮御成務所  
長久保 中納言  
藤原 隆家

古事記上巻法書事  
伏見宮御成務所  
長久保 中納言  
藤原 隆家

古事記上巻法書事  
伏見宮御成務所  
長久保 中納言  
藤原 隆家

修 徳 寺 住 持 印 可 印

印 可 印 住 持 印 可 印

皇 朝 聖 教 部 下 司 印

引 付 人

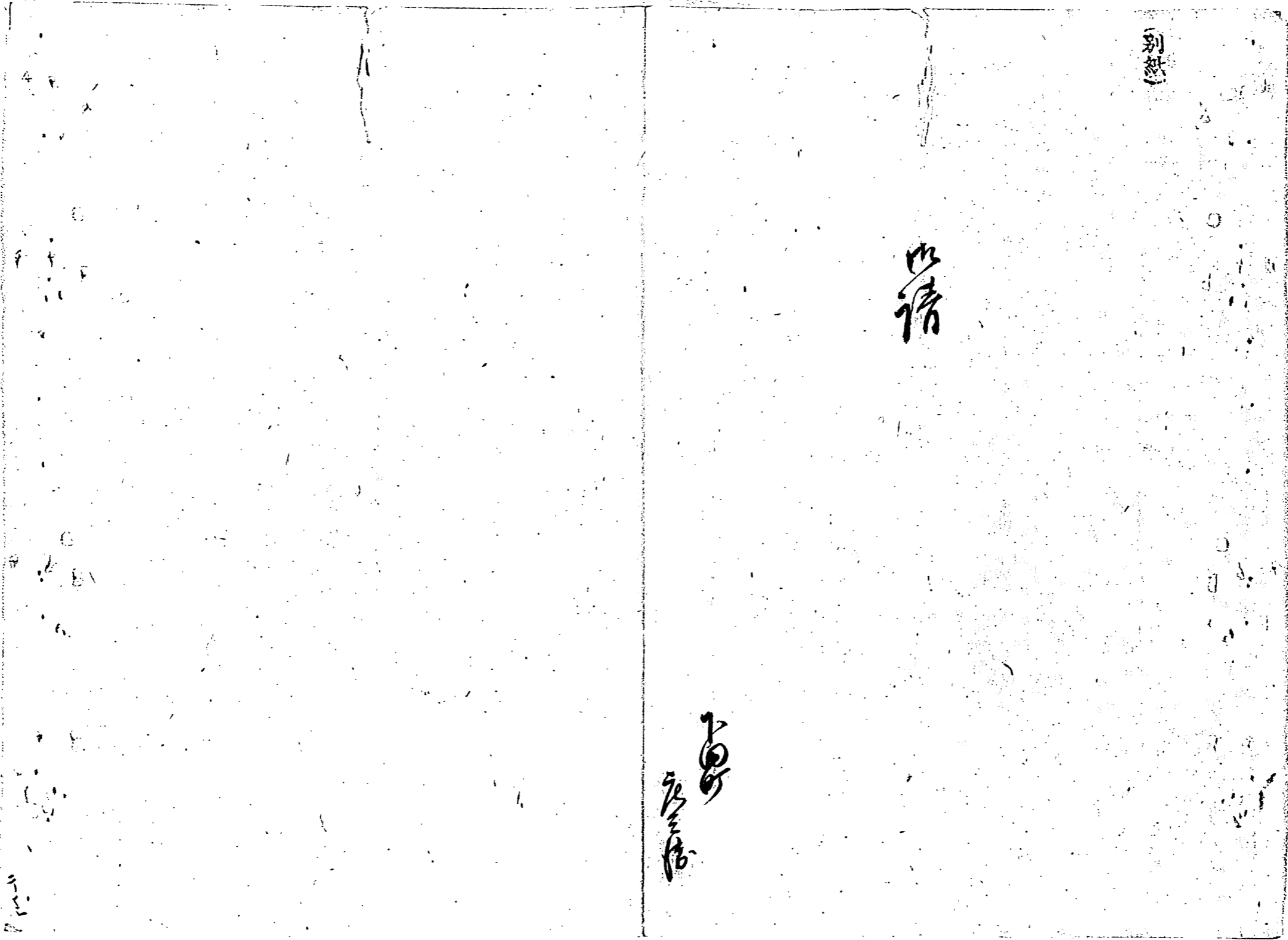
中 途 印 可 印

印 可 印 住 持 印 可 印

名 法 住 持 印 可 印

皇 朝 聖 教 部 下 司 印  
印 可 印 住 持 印 可 印





別紙

世清

子  
子

3-2186

0054

奉命西行書年一

一 音名百新年一 長久入 中久入

代浪抄之九百七拾三頁 但抄之九百七拾三頁

代浪抄之九百七拾四頁 但抄之九百七拾四頁

一 口名百新年一 長久入 中久入

代浪抄之九百七拾五頁 但抄之九百七拾五頁

代浪抄之九百七拾六頁 但抄之九百七拾六頁

一 音名百新年一 長久入 中久入

代浪抄之九百七拾七頁 但抄之九百七拾七頁

代浪抄之九百七拾八頁 但抄之九百七拾八頁

今浪抄之九百七拾九頁

右今浪抄之九百七拾九頁 但抄之九百七拾九頁

此今浪抄之九百七拾九頁 但抄之九百七拾九頁

承知事... 結信

明治元年十月

巨野...

引...

...

...

...

...

...

別紙

燈明堂書類之内

3-2186

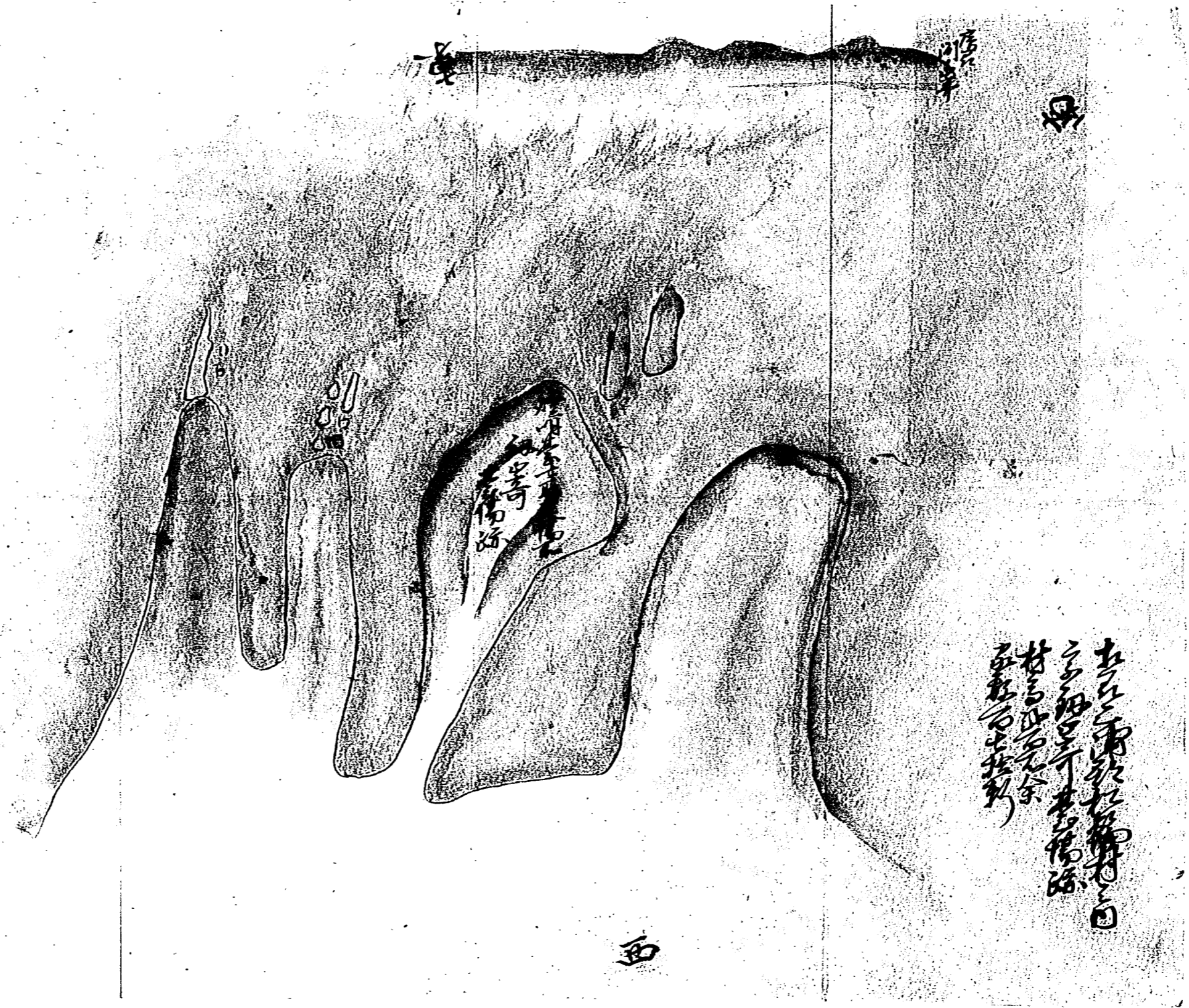
0057



3-2186

0058

● ○ ● ●  
装 法 平 恒 記  
字 中 志



此は南無阿弥陀仏  
の御念珠に  
付して  
五粒の  
珠あり

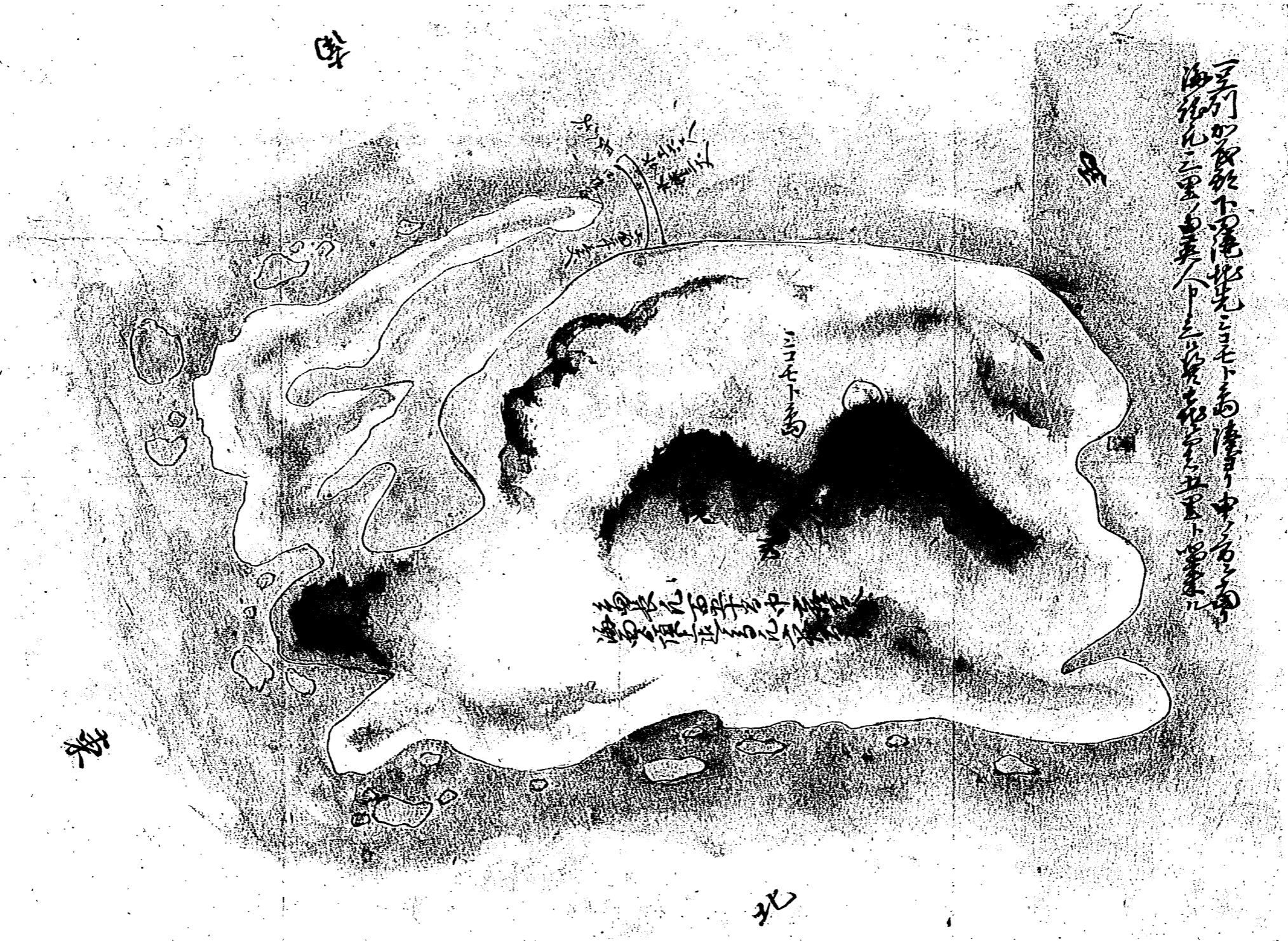
3-2186

0059



3-2186

0060



三河の東に於て下河津地先三河下河津中ノ島あり  
海峽化ニ至ル由美人ノ一ノ島有之也其島下河津ニ

三河下河津中ノ島あり

三河下河津

3-2186

0061

国立公文書館 アジア歴史資料センター  
Japan Center for Asian Historical Records  
<http://www.jacar.go.jp>



校合済

20.5.24.11.10

長谷川町長 宛  
別紙

此の如く御座り候事  
御座り候事  
御座り候事  
御座り候事  
御座り候事

引合済 第四節

五月十三日

此の如く御座り候事  
御座り候事  
御座り候事  
御座り候事

3-2186

0062

校合済

別紙

明治三十一年九月二十二日

引合済

日本は府の府民を以て一人の府民と見做す  
府民の一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す

府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す

府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す  
府民一人一人は皆一人の府民と見做す

カニヤ

船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

とらふに五年の船に宣威の船に宣威の船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

宣威の船に五年の船に宣威の船に宣威の船に

りて

Handwritten text at the top of the page, possibly a header or title.

Handwritten mark or character.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten signature or mark.

Handwritten text: シンリーブレンシントン

Vertical handwritten text on the left side of the page.



皇清國年...  
...

...

本文...  
...

...

東京...  
...

3-2186

0067







肥前唐平三郎方良

己丑月六日

封

町  
南  
都

行政官

年

判

肥前唐平三郎方良

武相

末

若

若

若

若

若

正の書

二〇〇〇年

正の書

中

都 府 郡 縣

正の書

寫濟

正の書

寫濟

正の書

正の書

正の書

正の書

正日

正日

正日

中

都

正日

寫濟

燈

長

長

類

類

類

類

類

孔

孔

3-2186

0072

三ノ葉世 五月十日

寫濟

心正城を為すは親王の御事  
切に奉る事なすは城守の御事  
その三人三年に有る事なすは  
若くは御事なすは御事なすは  
御事なすは御事なすは御事  
御事なすは御事なすは御事

類解

三ノ葉世 五月十日

美ノ世

近年政府用事修方備増  
書面

馬濟

修方是親採其精之修然之  
誤久有之修方大之能可也  
修方之修方其性其出之修方  
修方之修方其性其出之修方  
修方之修方其性其出之修方

類聚

修方之修方其性其出之修方  
修方之修方其性其出之修方  
修方之修方其性其出之修方  
修方之修方其性其出之修方  
修方之修方其性其出之修方



たすきのり出書は其の月程は洋銀のり  
元利は多利一筆は多利は在りて  
与りて

其の程は其の料は其の  
用とて其の料は其の  
元利は其の料は其の  
其の程は其の料は其の

其の程は其の料は其の  
用とて其の料は其の  
元利は其の料は其の  
其の程は其の料は其の



今般東南海岸、外國船標的の爲燈明卷  
 枚、新法取建之積、付水代薪油其他之積  
 雜費、可相拂、以各港入洋、外國船之積  
 費、復爲沙苑出之積、付凡之何種船出、而  
 相商、可有之、以見、以可、進、枚、沙、或、兼、知  
 政、以、右、之、能、明、卷、之、精、粗、大、小、等、至、入、費、之  
 多、寡、可、有、以、得、共、昨、年、中、以、地、能、明、卷、取、三

作、節、其、軍、艦、之、ル、ウ、イ、ヤ、船、將、ブル、ウ、ク、ル、及、其、法  
 善、候、有、之、其、節、彼、之、サ、之、高、ハ、入、港、船、一、艘、付  
 ハ、ト、ル、ラ、ル、程、も、取、三、相、同、可、統、一、有、中、少、以、然、と  
 右、之、高、港、航、航、黃、鴻、小、能、明、卷、之、割、合、之、付、今、般  
 法、遠、之、一、能、明、卷、格、別、盛、大、之、事、と、以、り、今  
 那、投、程、も、相、増、都、合、拾、枚、程、も、法、増、相、成、可、然  
 其、ト、相、考、以、右、之、前、条、中、進、以、通、製、他、精、粗





大小國の必き美り可なり存は回其辺は合  
清取捨有之は以は既貴者なり一と兼て中仲及  
如新の以上

日  
月  
海

臺灣府判事

外國官判事

三ノ十ノ

三ノ十ノ

三ノ十ノ

町五位

忠嘉

主馬

莊藏

翠正

岩司

岩堆

0079

3-2186

己二月十九日兵庫縣公到書

己二月十九日兵庫縣公到書

小一郎 當一

忠喜 主馬

莊藏 翠正

岩司

岩堆

0080

3-2186

寫濟

昌年八月念日越水舟東南博  
妙如標的之為珍明甚救  
少以建水成，換就日去，法難費  
相魚舟舟港之津水國如舟  
修路之舟之舟舟之舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

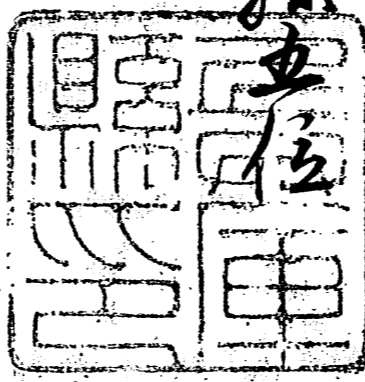
建永四年八月廿三日  
見也難多立多取中一越多澤也  
為可調了多行冬為中少中多生也

二月廿日

伊藤 立位

外國官

伊藤



3-2186

0082

浦賀

中島

町  
南  
花

浦賀

浦賀

浦賀観音崎燈台を完成せしむ  
東久世中將殿を以て  
第一号とす

寫

浦賀の観音崎に燈台を築く事  
に決し其の第一号とす  
中將殿を以て  
第一号とす  
浦賀の観音崎に燈台を築く事  
に決し其の第一号とす  
中將殿を以て  
第一号とす

此後...  
 此後...  
 此後...  
 此後...  
 此後...  
 此後...  
 此後...

此後...  
 此後...  
 此後...  
 此後...  
 此後...

安房殿

此後...  
 此後...

德威東經 三十九卷

此東經至英國...  
 此東經至英國...  
 此東經至英國...  
 此東經至英國...  
 此東經至英國...

Handwritten text in vertical columns, likely a historical document or letter. The text is written in cursive Japanese calligraphy (sōsho) and is contained within a rectangular frame.

Handwritten text in vertical columns, located to the left of the main document. It appears to be a commentary or a related note, also written in cursive Japanese calligraphy.

Handwritten text in vertical columns, located below the main document. This section contains several lines of text, possibly a signature or a postscript, written in cursive Japanese calligraphy.



海利と云ふは英國の領土  
依りて係属東洋の領土に  
親(文)書(記)事(録)一(冊)也

里教乃度

乃度乃度里教と洋の領土  
に人、航海、海防の事、相  
軍制

ナラシ候様

ナラシ候様より命を蒙りて  
名馬の御用を命じ、アムカ島  
におよび、アムカと御用を命じ

岸傍

岸傍の御用を命じ、アムカ島  
におよび、アムカと御用を命じ

天保九年八月廿一日

長崎出陣  
シロノ

此年月日長崎出陣

シロノ

有る通届、海軍奉行の事有る  
之、其宛、長崎奉行に送付

長崎奉行

シロノ

長崎奉行

長崎奉行



十九番

二五〇

申初言

申初言

寫濟

親考海燈の巻末の事

ハニ有る布告之巻末に

之りし事候を山崎

事一後所へ書向

録

之様概方ゴントシ

ニ出ル趣を守

折ニ有汁可及

度夕之有布告

之を可教合

折取ノ様

申

申

申

3-2186

0089

日誌  
二月廿三日

言

○  
○  
○

既考海燈の巻末の如成

有る布告之長編七巻下

シテも海燈の巻末の如成

ノ一後から海燈の巻末の如成

様紙方ゴントシより新字紙

出ると趣く海燈の巻末の如成

ノ一海燈の巻末の如成

海燈の巻末の如成

海燈の巻末の如成

海燈の巻末の如成

考  
考

考  
考

海燈の巻末の如成  
海燈の巻末の如成  
海燈の巻末の如成  
海燈の巻末の如成  
海燈の巻末の如成  
海燈の巻末の如成  
海燈の巻末の如成  
海燈の巻末の如成  
海燈の巻末の如成  
海燈の巻末の如成

3-2186

0090

法皇ノ御生後國人は其御  
お成り格に事一たび御座り候  
と云ふ事は之の御まゝに御座り  
候り候し由は御座り候し事  
此の如く御座り候し事

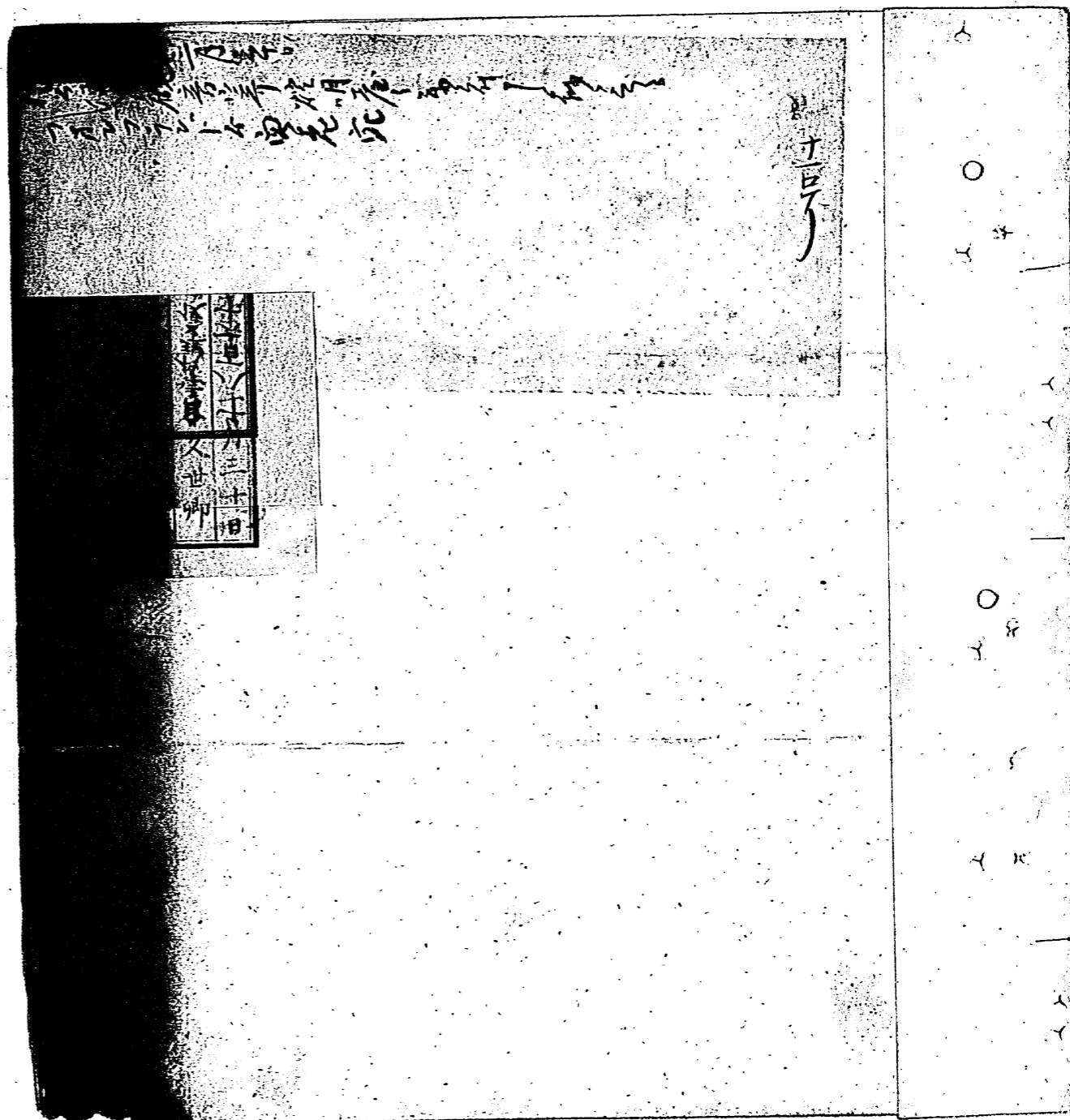
神皇正統記

一ノ巻  
神皇正統記

外國書

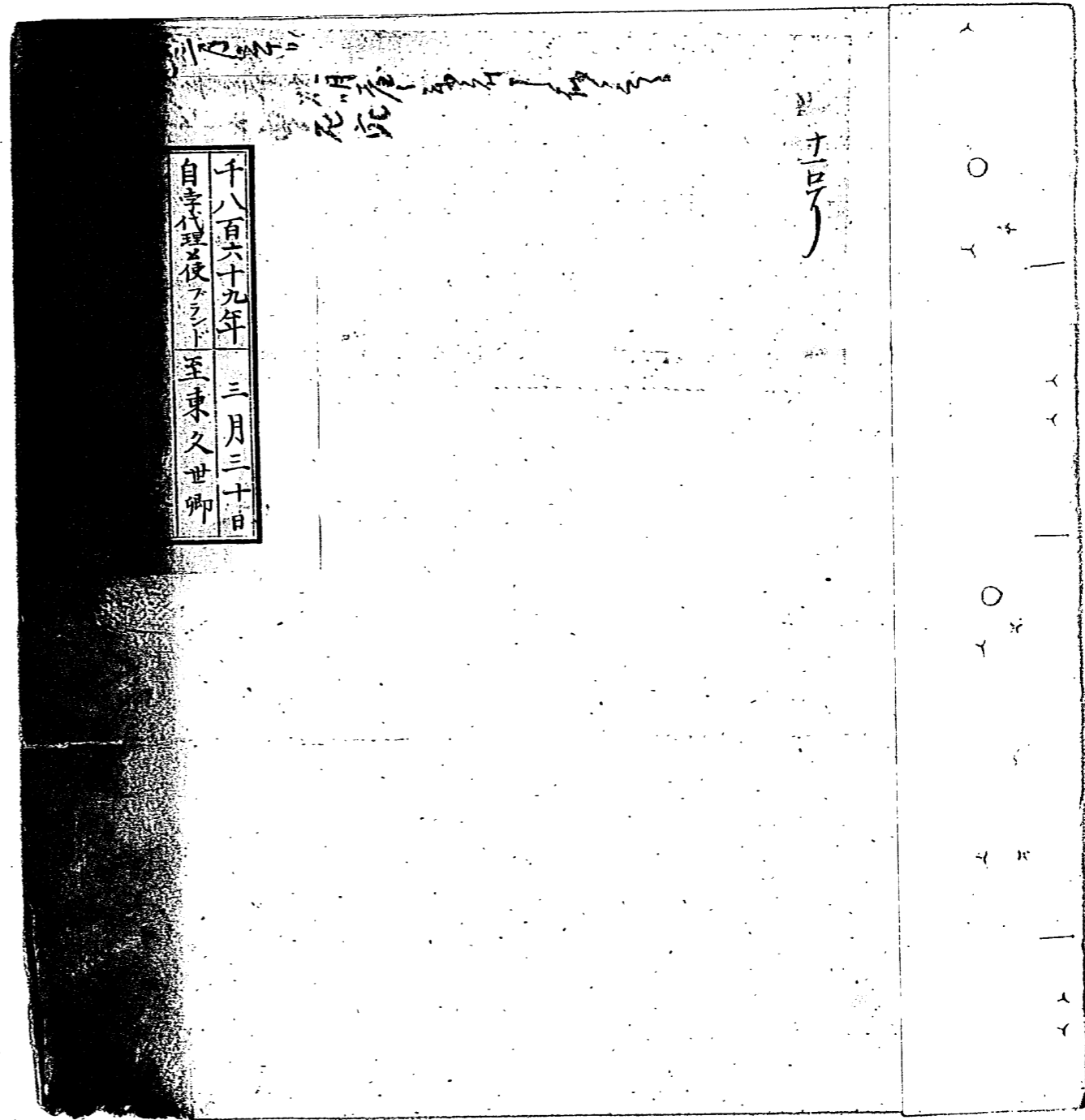
一ノ巻

一ノ巻  
神皇正統記



3-2186

0092



3-2186

0093



Sokohama den 30 ten März 1867

Oben einer anbliesen Mittheilung die  
Ingenieurs Branten in den Zeichnungen so sehr  
dass ein Irrthum auf dem Punkte anzuzeigen  
müssen sind in Euthigkeit gezeichnet ist. Die  
mache mir auf dem Königl. Rathe anzu  
eine Mittheilung über die Stelle und die Art  
des fürstl. Zeichnungens ist, welche ich durch  
lang sarantelung zu wollen, dass mir diese  
die besten Zeichnung ist. Die Mittheilung  
kalt möglich gemacht wurde, denn ich mich  
zurücksetze für den Vorbreitung  
Angelegenheiten. Mit Euthung und  
die Gapschickung der Norddeutschen  
Brenn.

An  
den Minister der auswärtigen Angelegenheiten  
Hijaschi Kuzi Chusto  
Ezcellenz.



寫濟

類稿

以紙張者為其國政府之機械者フロント  
式向者紙張者其祖考諸君也其後本就其  
既不用其紙張者其後其後其後其後其後  
任其行其其其其其其其其其其其其其其

其後者其後其後其後其後其後其後其後其後  
其後其後其後其後其後其後其後其後其後  
其後其後其後其後其後其後其後其後其後  
其後其後其後其後其後其後其後其後其後

三月二十日

獨り其聯邦後

フロンティア

東久世中

閣下

三ノ下。ラハ申上ノ事

馬濟

祝音塔燈回臺承功成  
以身成布告之我伴國公使  
信從下之旨其後西多也

類聚

宗國之伴分下之之  
以通之彼上之旨其  
お承し和らぬ事

神奈川縣  
お友事

お国友  
お友事

此後伊多利重國修約程見と女苗  
裁束下備多様と家記しるる百  
有しるる也

3-2186

0098

二月廿日 二〇英斗

高濟

英斗

此紙酒樽古者燈籠屋に候有るに云はれり  
今も此屋に在る櫻川寺位及之由酒樽を  
名取茶十字寺外國教より存心寺に傳へ  
候下此寺に在るに云

二〇

英斗

二〇

外國

中下

原文  
不可  
照写

十八番

二月廿日

二月廿日

寫濟

野民

貞助

性

抄印

此子紙落子紙... 海防昔有

十時長... 海防昔有

此為... 海防昔有

類聚

以後... 海防昔有

及... 海防昔有

送

外國官

謹

於美公使館

己未八月

中下

第百行...

二月五日

二月五日

山口

山口

都

類

惟此... 類... 早... 易... 新... 方... 極... 後... 一... 主... 氣... 千... 行... 出... 展... 奉... 以... 短... 日... 因... 循... 奉... 以... 也

所... 係... 之... 亦... 係... 了... 亦... 有... 聖... 意... 以... 為... 所... 方... 之... 故... 知... 官... 之... 亦... 係... 了... 亦... 有... 聖... 意... 以... 為... 所... 方... 之... 故... 知... 官... 之... 亦... 係... 了... 亦... 有... 聖... 意... 以... 為... 所... 方... 之... 故... 知... 官... 之...

二月五日

都

山口

吉...



二五二〇

了才台直久

町田重臣

中野

都名

體取卷第... 爲官... 因循... 進書...

類纂

... 爲... 因循... 進書... 體取...

了才

町田重臣

町田重臣



三ノ 芳原通上初生

中将

民部

南員助

勢在左

中下

林右

言右

修理和

岩井

岩井

主馬加

五右衛門

外右衛門

判事

判事

判事

今般

白蘭在南海岸口知事松橋の者  
松川甚急松川は越前守松川は各港  
入津之舟を多船より其の貴種を

類解

此方正徳判令成見世付凡そ  
何種も多末末末末末末末末  
尤も外右衛門は是等費用を後以て  
多末末末末末末末末末末末  
又國守松橋甚急松川は各港  
松川は越前守松川は各港  
取手松川は越前守松川は各港  
一七下下末末末末末末末末  
年中末末末末末末末末末末



五  
皇國海軍艦艇甚多前年今其用  
業計之在艦艇凡見艦上可多也  
引艦片之由本國之艦艇與一併  
艦艇之建造之根軸之航海之安全  
ありし少んじ之也後より約定ありし  
比例艦艇之少くはるる一併  
五之皇國海軍艦艇甚多前年今其用

己二月

○

寫濟

ありき

別紙文子御書

有之友書云

此書は

古の

筆

本

一

書

也

波

音

子

達

之

元

3-2186

0105

外西友  
外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友

外西友